

重層下請構造の是正について

(社)日本建設業団体連合会
「建設技能者の人材確保・育成に関する提言」の実施における基本方針について(平成21年5月)

○重層化

日建連会員企業は、重層下請構造の改善のため、

- ①重層下請次数を原則3次以内とする。
- ②また、5年後をめどに2次以内を目指して取り組むこととする。

＜建設技能者の人材確保・育成に関する提言＞
下請階層が増えるにつれ、手数料・経費が発生し、労務費へのしわ寄せを生んでいる。
また、品質・安全の確保、労務管理の面からも責任の不明瞭化・指示の不徹底等を生み出している。

(社)建設産業専門団体連合会
「建設労働生産性の向上に資する12の提言」(平成22年3月)

○重層下請構造の深化・施工体制の複雑化

- ・下請構造の過度の重層化により、余計なコストの増大、施工の非効率化、品質の低下等の懸念が生じる
- ・「専門工事業者と適切な下請負契約を結ばず(結ばず)、「直用扱い」として仕事に携わる技能者が存在する
- ・下請構造を厳密に観察すると、施工体制台帳等で確認されるよりも深化している

建設技能労働者の人材確保のあり方に 係る検討会

〔委員の意見〕

○今の企業の数が多過ぎ、過当競争の結果、安値受注し、何でも下へ流して重層下請にしていることも要因の1つ。元請が3年先、5年先には重層化を3次までというようなことに決めるなら、下請も2次、3次に上げていくことをしないとイケない。

○重層構造の下の方では、就業規則や保険が適用外になっているところなど、あいまいなグレーゾーンがある。右肩上がりの時代と違い、そういったところで利益があげられなくなり、問題となっている。

○重層下請構造により、末端の賃金が下がるほか、現場の安全性、品質管理の面からしても、誰が責任を持つのかよくわからないような状況になっている。主任技術者の厳格な運用をすれば、四次も五次も重層化することはできなくなるのではないか。

人材確保に係るヒアリング

〔元請企業・専門工事業団体の意見〕

○建築は3次ぐらいの重層になっており、職人は1次よりも2次のほうが多い。中心は2次。直用よりも専属下請が多い。

○土木の下請は、概ね2次までに収まっている。建築の下請は、3次以上に重層化している。

○発注者には発注を平準化してほしい。そうすれば職人も平準的に仕事ができる。仕事が平準化していないため重層下請となっているが、平準化すればやり方が変わると思う。

○少ない時の工事に合わせて労働者を雇っており、忙しいときは他に応援を頼む。問題視される重層下請けだが、繁忙調整の際は有効に機能している。

重層下請構造の問題点

重層下請構造については、次のような問題点があるのではないか。

- ① 間接経費の増加による生産性の低下、労務費へのしわ寄せ
- ② 施工責任の不明確化、品質の低下
- ③ 安全指示の不徹底等による安全性の低下

1. 企業、業界団体の自主的な取組み

(1) 下請契約の必要性のチェック

- 施工体制台帳等により、不必要な下請契約をチェックにより、不必要な下請契約を減らすことができないか。

(2) 下請企業の業務の平準化

- 平準発注、工程管理の徹底などにより、下請企業の業務体制を安定化させることにより、不必要な下請契約を減らすことができないか。

2. 市場誘導方策

- 施工体制のチェックにより、不必要な下請契約を減らすことができないか。

3. 法律上の規制方策

(1) 施工体制のチェック

- 建設業法上の専任技術者の実態をチェックすべきではないか。

(2) 偽装請負への対応

- 労働者性、請負と派遣の判断基準等の周知、徹底などに取り組むべきではないか。